ミューズ No. 44 平和のための博物館・市民ネットワーク通信

発行:2020年12月

編集:安斎育郎、山根和代: <u>musejapankyoto@gmail.com</u> イラスト: 戸崎恵理子 & Pegge Patten

第 10 回国際平和博物館会議 オンライン会議での画期的成功 マンガ・パンデミック Web 展は 12 月 25 日まで開催中

未知の出来事に苦闘し続けた 2020 年国際平和博物館会議

第 10 回国際平和博物館会議は 2020 年 9月 16日~20日に京都と広島で実際に参加者が出席して開催される予定でした。しかし、新型コロナ・ウィルス感染拡大により、当初の予定の変更を余儀なくされました。そして 2020 年 4月に平和博物館国際ネットワーク (INMP)は、理事会と諮問委員会の見解を考慮して、組織委員会にオンライン会議への計画変更を提案しました。

組織委員会は、このような国際会議をインターネット上で実施した経験がなく、会員参加の見通しなど未知の要素が多く、計画変更の当初はこの国際会議が成功するかどうか確信が持てませんでした。しかし、組織委員会では、発表の申し込み期限である6月15日に応募状況を確認し、安心しました。この国際会議での発表

に、様々な国から 100 名以上の参加者が

多様なテーマで発表を希望しているとわ

かったのです。

発表者への技術的支援が 大きな助けに

このような状況では、主催者側だけでなく、インターネット上で使用される技術を扱うことに熟練していない発表者も困っていました。組織委員会の特別技術顧問である玉城ロイ博士は、こうした技術的な問い合わせにも丁寧に対応し、会議の成功に大きく貢献しました。



erico

また、組織委員会は発表者と組織委員会 とのコミュニケーションを円滑にするために、山根和代博士を国際連絡委員会委 員長に任命し、INMP ジェネラル・コーディネーターの安斎育郎教授が「ジェネラ ル・コーディネーターのデスクから」を頻繁に発行し、INMP 会員や発表者との情報 共有を図りました。

和太鼓と生花の日本文化プログラム が行われた開会行事

9月18日にホームページで公開された この国際会議の内容は、大変広範囲の分 野に渡るもので、情報量も多く、魅力的 なものでした。

開会行事は、共催団体である京都芸術大学の学生の皆さんによる和太鼓の演奏で始まり、歓迎の辞に続く記念講演は、日本の伝統的な華道を教えている華道家元池坊の次期家元の池坊専好さんによるものでした。



和太鼓の演奏

INMP の諮問委員であるクライヴ・バレット牧師は、次のように感想を書いています。「(この開会行事で発表された方々は) お互いを見事に補完していました。私たちは何時間もかけて

"平和"の意味を議論しているわけですが、この2つのビデオでは、平和の大変多くの要素が示されています。和太鼓の演奏では、変化のために重要な、興奮、エネルギー、活動性、団体での共同作業を示しています。生花は、一人一人の大切さ、内省、静けさ、秩序、自然の美しさへの感謝を語りかけています。しかし、和太鼓と生花は「調和」の異なった次元を表現しています。それらは「平和」の幅広さと多様性を示しているのです。



池坊専好氏による生花の実演

ホームページ上での 内容豊かな発表

この国際会議の発表は、INMP のウェブ サイト website でまだご覧いただけます。 公開されている情報は、新版が発行され た『世界の平和のための博物館』 "Museums for Peace Worldwide" (日本語 版・英語版)、インターネット上のセミナ ーである 4 つのウェビナー (広島パネル Hiroshima Panel、館長・学芸員パネル Directors/Curators Panel、若者パネル Youth Panel=下に写真、ジェンダーと人 権パネル Gender & Human Rights Panel)、論文発表、討論会、ビデオ展示、 ポスター展示、マンガ・パンデミック Web 展 Manga Pandemic Web Exhibitions、 INMP 総会 the INMP general meeting などです。諮問委員のサイード・シカンダ ー・メーディ教授は、主催者に以下のよう なメールを送ってこられました。

「INMP のサイトを訪問して会議を振り返ってみました。驚くべき内容です。素晴らしい会議でした。組織委員会は、重要なテーマに関する多くのビデオや論文の発表、重要な問題に関するよくまとめられた討議会、そして美しい文化プログラムを取りまとめることに成功しました。」



マンガ・パンデミック Web 展は 2020 年 12 月 25 日まで開催されています。マンガ作品の投稿はプロ・アマ問わず 11 月 30 日まで受け付け、1000 点を超える作品が世界中から寄せられました。

9月18日、数十名の会員が様々な国から参加するオンライン総会が開催され、全ての議案が原案通り承認されました。山根和代博士(理事)、ロイ・タマシロ博士(諮問委員)に特別功労賞を、安斎育郎氏(ジェネラル・コーディネーター)には2021年1月1日付で名誉ジェネラル・コーディネーターの称号を授与することが決定されました。

コロナ禍の中で励む「平和の種まき」

满蒙開拓平和記念館館長 寺沢秀文

今春からのコロナ禍、ご多分に漏れず **当館もその影響**を大きく受けています。 3月以降、団体予約はほとんどがキャン セル、また4、5月と2ヶ月間の臨時休館 を余儀なくされました。ところが秋にな って、コロナ禍により県外へと行けなく なった県内の学校修学旅行の来館が急増、 当館では昨年思い切って広い「セミナー 棟」を増築してあったこと等も功を奏し て、10、11月は昨年同月を上回る多く の学校が来館してくれました。特に長野 県は全国で最も多くの満蒙開拓団を旧満 州へと送出した県であり、戦後余り語ら れなかった「向き合いにくい不都合な歴 史」を生徒さん達だけでなく、先生方にも 知って頂ける機会となりました。



この思わぬ学校来館の急増、出来ることならば今年だけの一過性のものとならめよう少しでも来年以降に繋げたいものと思います。とは言え、年間を通して見ると今年の来館者数は昨年のほぼ半分程度で終えてしまいそうな見込みではといてもとのではなることでしょう。しいさいではなることでしょうの悲惨とは、満蒙開拓の史実を通じて戦争の悲しない。明日に向けての本えさせてはならない。明日に向けてのれたらも励みたいものと思っています。



戦後 75 年、あの戦争の実相に迫る 山梨平和ミュージアム理事長

浅川 保

山梨平和ミュージアム (YPM) では、 戦後75年の今年、企画展「戦後75年、 戦後処理を考える」(1月から6月末まで) に続いて、現在、企画展「戦後75年、あ の戦争の実相に迫る」を行っている(来年 2月末まで)。戦争体験者の高齢化が進み、 戦争の記憶が薄れる中、特に戦場体験の 実相、記録をリアルに継承していくこと が重要になってきている。そこで、中国戦 線での加害体験、レイテ戦の実態、満州 国・五族協和の実態、日中戦争体験から日 中友好へなど、在原金造さんら7人の体 験をパネルで紹介、さらに、山梨県戦没者 の地域別戦没者数 (中国戦線・レイテ戦の フィリピンが多い)、戦争終結の転機を考 える等、パネルや実物資料で多面的な展 示を行っている。コロナ禍ではあるが、こ の間、開館を続けており、この所、東京、 神奈川など他県からの見学者も多い。別 紙・新聞記事も参照下さい。



「中帰連記念館」近況

芹沢昇雄

記念館は春にコロナで一ヶ月ほど休館しましたが、その後は何時も通り開館しております。もともと記念館の来観者は多くありません。

何人か個人の来観者の他に 9 月 17 日に、上海東方衛星テレビの宋看看記者(東京支局長)がカメラマン同行で 3 回目の取材に来館しました。

その後、吉川春子さん(元参院議員)が代表を務める「『慰安婦』問題とジェンダー平等ゼミナール」の皆さん15人が、10月24日に来館下さいました。当初、30人の予定でしたがコロナを配慮し15人にさせて戴きました。当日は吉川代表の他に「慰安婦裁判」

の弁護団長をされた大森典子弁護士もご 一緒でした。



富山県入善町で毎月定期的に勉強会を開いている「昭和史セミナー」の皆さんの要望で、11月5日に芹沢事務局長が現地で「中帰連」の話をしてきました。参加者は15名程で事前にお送りした記念館の『ブックレット』を熱心にお読みいただき参加下さいました。当日はプロジェクターで写真を見ながらの説明と、その後に映像をみてもらい、質疑応答を含め約2時間ほどの交流でした。

記念館の「供述書を読む会」は月一回のペースで開催していますが、「中帰連に学ぶ会」はコロナが落ち行くまで休んでおります。

丸木美術館

学芸員 岡村幸宣

今年は新型コロナウイルス感染症拡大により、4月9日から6月9日まで2カ月にわたって臨時休館を決断しました。「原爆の図」を誰でもいつでも観ることができるための美術館という設立の理念を思うと、美術館の扉を閉める判断が正しかったのかどうか、今も悩み続けています。その一方で、感染者が三度増え続けている現状では、扉を開け続けて良いのだろうかという迷いも抱えています。見えない脅威にどう対峙するか、本当に判断が難しいところです。

臨時休館にともない、国内外より緊急支援が寄せられ、約5000件、7000万円が集まりました。また、2017年に開設した原爆の図保存基金(「原爆の図」保存修復、老朽化した建物改築のための基金)も今年に入って増加傾向となり、現時点で約6000件、1億4000万円が集まっています。厳しい社会情勢の中でご支援くださった皆さまには、心より御礼を申し上げます。来館者数を増やすための取り組みだけでなく、来られないけれども運営を支えた

いと考えてくださっている方々との連携 の重要性を再確認した一年でした。今後 は、カード決済によるサポーター制度の 拡充や、ヴァーチャルツアー映像の公開 など、国際的に支援体制の裾野を拡げて いきたいと考えています。



埼玉大学オンライン講義の様子を NHK が取材 している様子

第五福竜丸展示館 第五福竜丸が 「ふね遺産」として認定

学芸員 蓮沼佑助

この度、第五福竜丸が日本船舶海洋工学会による「ふね遺産」に認定されました。 これは歴史的で学術的、技術的に価値の ある船舶類とその関連設備を同学会が 「ふね遺産」として認定するもので、福竜 丸は「洋型肋骨構造」を持つ希少な木造船 資料として評価されたものです。

第五福竜丸は敗戦直後の食糧難の時期 に建造され、遠洋漁業に従事した木造船 です。本来は20年程度とされる寿命を 過ぎれば廃船となり解体されるか、浜で 静かに朽ち果てて行く運命にありました。 しかし、水爆実験と遭遇したことにより、 建造から70年以上が経過した今、核実 験の惨禍を伝える平和遺産として保存されています。

船体は近年、骨格など構造の歪みが懸念されている他、劣化が進むエンジンの保存対策が重要課題となっています。2016年からは文化財保護や木造建造物など各分野の専門家からなる「第五福竜丸船体等保存検討委員会」により、保存の対策を議論しています。第五福竜丸を将来にわたり保存する産業文化遺産としての第五福竜丸の存在をアピールし、核兵器禁止条約発効も追い風にして第五福竜丸への関心を集める機会にしていきたいと思います。

2021 年の 3・1 ビキニ記念のつどいでは、第五福竜丸が「ふね遺産」に認定されたことを記念するオンライン市民講座を開催する予定です。詳細は第五福竜丸展示館 web サイトをご確認ください。



アクティブ・ミュージアム「女たちの 戦争と平和資料館」(wam)

名誉館長 池田恵理子

「女性国際戦犯法廷」から20年目にあたる2020年も、いよいよ師走の月に突入

しました。今年は国内外でいくつもの記念イベントがありましたが、今月はそのピークを迎えます。wamでは今、12月12日から始める特別展「天皇の戦争責任・忘却する『国民』~女性国際戦犯法廷から20年」展(仮)のパネル制作に追われています。

それもあって、この 20 年を振り返る機会が増えると、複雑な感慨を覚えます。国際社会を見渡せば、自国の戦時性暴力を訴え裁こうとする女性たちの動きが活発化し、最近では「#MeToo 運動の元祖は『慰安婦』被害者」と言いながらセクハラ被害を訴えたり、2018 年のノーベル平和賞を戦時性暴力の根絶と被害者救済に尽力してきたデニ・ムクウェゲさん(コンゴ)とナディア・ムラドさん(イラク)が受賞して話題になりました。

ところが「慰安婦」問題の加害国・日本では、官民一体となったバックラッシュが勢いを増しています。日本政府に事実認定と公式謝罪・賠償を求めてきたアジア各国の被害女性たちは高齢となり、訃報が相次いでいます。他方、日本政府は「慰安婦は性奴隷ではない」「強制連行の証拠はない」「日本に法的責任はない」と主張、ネトウョと呼ばれる人々やヘイトスピーチなどの右翼集団が「慰安婦」支援者への誹謗中傷や攻撃を繰り返してきました。それらを監視し批判すべきメディアには忖度や自粛が蔓延し、「慰安婦」問題をタブー視するばかりです。

2000年12月の「女性法廷」で「昭和天皇有罪」「日本政府に責任がある」とする判決が読み上げられた時、各国の被害女性たちは「やっと正義が実現した!」と感激して抱き合いました。あの姿と表情を思い浮かべると、辛く申し訳ない気持ちでいっぱいになります。

今回の wam の特別展では、敗戦後も天皇 の戦争責任を問わないできた日本の問題 を、それに抗って問い続けてきた民衆の 声にもスポットを当てて考えていきます。 ぜひ、奮ってご来館ください。



wamでは、女性国際戦犯法廷の判決で「有罪」 となった日本軍の責任者たちのポートレイト と、それに歓喜する被害女性たちの写真を常 設展示。日本語訳の判決全文も読むことがで きる。



ピースあいちの近況

館長 宮原大輔

コロナ禍のため本年 4、5 月を休館としたため、約 2 ヶ月遅れで企画展「模擬原爆パンプキン―市民が明らかにした原爆投下訓練」が開催されました(2020 年 6 月 9 日~同年 8 月 29 日)。福島市内に投下されたパンプキン爆弾の破片(約 15 キログラム)が展示されるとともに、ピースあいち支援者の尽力により、展示会期間中にその精巧なレプリカが作成され、展示されました。その後レプリカは常設展示されています。



常設展示中のパンプキン爆弾の破片レプリカ

9 月は建物の改良工事のため 1 ヶ月間 休館しました。

10、11月の企画展は「戦争の中の子どもたち」「戦争と動物たち」(同年10月6日~同年11月28日)が開催されました。ここでは愛知県碧南市市史資料調査室が所蔵する昭和初期から戦中、戦後(昭和20年代)に子どもたちが遊んだ「めんこ」約400点が展示されました。「めんこ」の図柄も世相を反映していました。

12月から「ピースあいち第8回寄贈品展 伝えていこう戦争の記憶」が開催されます(同年12月8日~2021年2月27日)。寄贈品展は市民からこの1年間に寄贈された戦時下の品々を整理して公開するもので、今回は23人の方から寄贈された235点を展示します。

ピースあいち戦後75年プロジェクト―戦後世代による語り継ぎ手ボランティアの募集は予想を大幅に上回る応募があり、その研修プログラムが始まりました。研修は2021年4月まで続き、その後は実際の活動に入る予定です。



国際平和ミュージアム

専門委員 山根和代

当館は9月28日より再会し、時間を短縮しています。詳細はHPをご覧下さい。

コロナ・ウィルスの影響で、ウェブ上で 常設展示を公開しています。

国際平和ミュージアムホームページにて 以下の3種類のWEB展示を公開してい ます。。

***WEB** 常設展示: ミュージアム の常設展示から 20 項目を取り上げ、紹介 しています。

https://www.ritsumeikan-wp-

museum.jp/webexhibition/permanent/

*ミュージアム資料 WEB展示:これまでに「ミュージアムだより」で紹介をした資料から18点を取り上げ、紹介しています。

https://www.ritsumeikan-wp-

museum.jp/museummaterials/

*第 133 回ミニ企画展示「戦後 75 年特別企画 ミュージアム・この 1 点」WEB 展示およ

び博物館実習生の成果報告展示

https://www.ritsumeikan-wpmuseum.jp/mini133kai2/

9月28日から11月7日まで「放射線像: 放射能を可視化する」という展示をしま した。

ミュージアム企画について

①秋季特別展「CITY&PEACE 南京国際平和ポスター展」

2020年11月14日から12月12日

②ミニ企画展示

第 131 回「学生が見たロヒンギャ」 2020 年 11 月 2 日から 11/26

第 132 回「中国人強制連行・強制労働と万人坑(人捨て場)」

2020年12月1日から 12月22日) 第136回「おなじ太陽のもとでーペルー へ日本人移民の始まり」

2021年1月9日から1月30日 第137回「学徒出陣 林尹夫をさが して-1943-2021」京都ミュージアムロー ド参加企画

平和資料館「草の家」 2021年3月5日~3月14日 「ビキニデーin 高知」開催へ 準備始まる

副館長 岡村啓佐 「ビキニデーIn 高知」実行委員会事務局長

2020年10月24日、核兵器廃絶を願う被爆者と世界中の人々が待ち望んだ核兵器禁止条約の批准国が、アメリカなどの核保有国の妨害を跳ね返し50カ国に達し、2021年1月22日には核兵器禁止条約が発効し、生物兵器禁止条約、化学兵器禁止条約に続く国際規範となります。「核なき世界へ」を願う歴史的な日となって、第2ステージへと歩みを始めま

「核なさ世界へ」を願り歴史的な日となって、第2ステージへと歩みを始めます。

私たちは、この歴史的な成果に励まされ「ビキニデーIn 高知」を3月に開催します。開催の目的は、1954年ビキニ環礁でのアメリカの水爆実験によって第五福

竜丸だけでなく、高知のマグロ漁船が延270 隻(全国延1000 隻)の、乗組員が被ばくしたこと。そしてこの被ばく事実が日米両政府の政治決着によって60年間隠ぺいされ、元マグロ漁船員と遺族は、いまだに救済されていないことを訴えます。



そして、ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマと核被災を被った日本・高知から、世界に核兵器廃絶と原発ゼロを発信する機会にしたいと思っています。企画には写真展(3/5~3/14・無料)、元マグロ漁船員と語るフィールドワーク(3/6・各6000円)、「ビキニデーin高知」全体集会(3/7・1500円)、映画「第五福竜丸」「高知県被爆者の肖像、遠洋漁業の記憶2020」の上映(室戸市2/28・高知市3/13・前売1200円)の四つを計画しました。(ポスター参照)全体集会はオンラインでの視聴(1500円)も準備します。

ビキニ水爆実験による元マグロ漁船員の被ばく調査と、救済に取り組む高知での「ビキニデー」の開催です。日本全国から、世界から多くの方々の来高をお待ち

しています。

岡まさはる記念長崎平和資料館

理事長 崎山昇

当資料館は、新型コロナ感染防止対策 を講じるとともに、開館時間を午前10 時から午後4時までに短縮して、6月9 日から開館しています。昨年9月から今 年10月までの1年間の入館者は激減し、 1028人となりました。会員の皆さん へ寄付をお願いしながら厳しい運営を続 けています。

また、7月19日には「第5回岡正治さんを語る会」を開催し、新海智広副理事長が2月8日~9日の韓国・釜山のタンクット教会での講演「岡正治先生の生涯と思想」を報告し、参加者との意見交換を行いました。そして、「もう一度学ぼう!日本の現代史講座第1期」を再開し、9月5日第5回「日ソ国交回復と北方領土」、11月7日第6回「戦後民主主義の家族と性」というテーマで開催しました。



さらに、今年10月1日で当資料館が設立25周年を迎えたことを記念して、10月4日設立25周年記念企画竹内康人さん講演会「長崎県での朝鮮人強制労働

の実態-強制労働の歴史否定を問う-」 を開催しましたが、会場参加と併せて、初 めてオンラインでの開催としました。



ひめゆり平和祈念資料館

学芸課 前泊克美

新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言で、開館以来初の休館(計72日間)を余儀なくされました。戦後75年の節目で、沖縄戦を伝える機会が減ってしまい、非常に残念です。

例年約300~400人が参列する6月の慰霊祭も、ひめゆり同窓生や職員あわせて約20人規模にとどまりました。教員向け講習会などの恒例イベントも中止せざるを得ませんでした。職員による展示室内の説明も、現在は行っていません。

また、3月の全国休校以降、修学旅行の中止や延期も相次ぎました。そのようななかでも、オンラインでのプログラムを要望する声が届いています。直接沖縄に来て、足を運んでもらうことがベストですが、何とか学びの機会を確保しようとする学校があることには励まされます。INMPや市民ネットのオンラインでの交流なども、離れていても交流できることが

わかり、今後の可能性を考える重要な機 会のひとつとなりました。

ひめゆり資料館は、現在、感染症予防対策をとりながら開館しています。当館は、入館料が運営の基盤となっているため、休館や入館者減が続くことは存続の危機でもありますが、何とか乗り越えようと職員一同頑張っています。

今年7月予定だった展示リニューアルは、2021年(来年)4月12日に延期となりました。現在、オープンに向けた準備を進めています。来春には感染症が落ち着き、新しい展示で来館者をお迎えできる状況になっていることを切に願います。

活動の縮小や運営上の心配などどの施設 も同様の課題に直面していると思います が、踏ん張って乗り越えましょう!

※2021 年 3 月 22 日~4 月 11 日はリニューアル準備のため休館となります。



規模を縮小して挙行した慰霊祭

Tel:098-997-2100 Fax:098-997-2102 HP http://www.himeyuri.or.jp FB

https://www.facebook.com/HIMEYUIRI .PEACE.MUSEUM/

新型コロナ・ウィルス感染症の 平和博物館運営に対する影響に 関するアンケート調査結果

国際平和ミュージアム名誉館長 安斎育郎

2020 年 7 月、「平和のための博物館国際ネットワーク」(INMP)のジェネラル・コーディネータ安斎育郎の名において、国内 99 館を対象に「平和博物館・資料館に対する新型コロナ・ウィルスの影響に関するアンケート調査」を実施した。結果の概要を以下に紹介する。

1. アンケート調査票の回収率

2020年7月4日、日本の「平和のための博物館」99館にアンケート調査票を郵送し、届いた90館のうち7月24日の指定回答日(23~26日が連休だったため実質28日に回収)までに届いた回答は57通で、回収率は63%だった。

新型コロナ・ウィルス感染拡大 による開館状況

回答を寄せた57館のすべてが臨時休館を余儀なくされていたことが判明した。

開館時の感染防止対策は館によって多 少異なるが、基本的には多くの館で以下 のような方法(長崎原爆資料館の例)がと られた。

- ○検温の実施(検温サーモグラフィーカメラによる自己確認)
- ○連絡先の把握
- ○距離・間隔の確保 (足形マークの表示、 座席に間隔を空けるマーク表示)

- ○対面通行の回避(館内一方通行)
- ○飛沫感染防止(受付等ヘビニールカー テン設置)
- ○接触による感染の回避(タッチパネル 式の資料映像モニターの使用中止、接触 体験型資料への接触禁止措置(透明シー ト設置)
- ○手指消毒の徹底(手指消毒液の随所への設置)
- ○換気の実施(排煙窓、非常口等を定期的 に開放)

3. 記念企画、特別企画などの実行・ 延期・中止など

設問 「貴博物館・資料館は、戦後75年の今年、何か記念企画を計画していましたか?」に対して、「企画なし」が18館(32%)で、必ずしも「戦後75年」と銘打ったものではないが何らかの特別企画を計画した館が32館(56%)で、半数以上の資料館・博物館でさまざまな企画が検討されていたことが分かった。なお、特別展示としてではなく、通常展示の一環として開催または企画検討中のケースが5件(9%)あった。

企画には、特別展示や講演会、朗読劇、芝居(演劇)、紙芝居、平和のつどい、記念コンサート、映画上映、記念フォーラム、慰霊祭、リレートーク(インターネットライブ配信)、学校での平和学習など、多様な形態があった。

また、企画された展示のテーマも、下記の 如く多様である。

- ○戦時体制のなかの学徒動員(福山市人 権平和資料館)
- ○知覧展─福山からの特攻」(同上)

- ○遺品が語る戦争─日中・大東亜戦争と は何だったのか(兵士・庶民の戦争資料館)
- ○阿波根 昌鴻写真展(佐喜眞美術館)
- ○平和展「特攻艇と宮古」(宮古島市総合 博物館)
- ○父の遺言─義烈空挺隊の真実」(知覧特 攻平和会館)
- ○戦後75年特別企画「ミュージアムこの1点」(立命館大学国際平和ミュージアム)
- ○模擬爆弾パンプキン展(ピースあいち)
- ○沖縄展(同上)
- ○少女たちと戦争展(同上)
- ○大空襲 7 5 年特別企画 (ピースおおさか)
- ○爆心地の記憶展(ナガサキピースミュージアム)
- ○証言の会50年─原点を見つめる展(同上)
- ○井川惺亮 Peinture 〈誓いの火とともに〉 (同上)
- ○長崎市被爆 75 周年記念事業 8+9 2020 ~ナガサキの地でアートを考える II 展 (同上)
- ○渋沢栄一と平和(仮称、埼玉県平和資料 館)
- ○予科練平和記念館所蔵資料展(平和祈 念展示資料館)
- ○被爆体験記企画展(国立長崎原爆死没 者追悼平和祈念館)
- ○戦後75年特別企画展(舞鶴引揚記念館)
- ○八重瀬沖縄戦資料展(八重瀬町立志頭 歴史民俗資料館)
- ○儀間比呂志作絵本「ツルとタケシ」原画 展(沖縄愛楽園交流会館)

- ○沖縄愛楽園とゆがふ舎に集うひとびと の作品展(同上)
- ○広島平和記念資料館のあゆみ (広島平和記念資料館)
- ○女性国際戦犯法廷20周年特別展(女 たちの戦争と平和資料館)
- ○特別企画展「SF・冒険・レトロフューチャー**ー**ぼくたちの夢とあこがれ」(昭和館)
- ○戦後75年特別企画写真展「東京情景一師岡宏次がみた昭和」(同上)
- ○戦後75年特別企画展「占領から独立までの軌跡1945-1952」(同上)
- ○大学(国際基督教大学、熊本大学)での 原爆展の開催(長崎原爆資料館)
- ○新着資料展(同上)

企画のうち「実施したケース」が8件 (14%)、新型コロナ・ウィルス感染拡大のもとで「中止」せざるを得なかったケースが14件(25%)、「内容を変更して実施」したケースが16件(28%)、「延期」したケースが5件(9%)、「今後検討する」としたものが6件(10%)あった。語り部による講話や講習を計画していた館の場合、中止・延期したケースに加えて、ズーム会議方式で実施したケースもあった。また、団体見学を予定していた学校の平和学習について、語り部を学校に派遣したケースもあった。

4. 新型コロナ・ウィルス感染拡大 下での平和資料館・博物館の対応・ 工夫

以下のような様々な対応がなされていた。

○館の展示内容などに関する DVD を制作・

貸出し

- ラインでつないで国外の関係者と意見 交換
- ○学校への語り部派遣に変えて、映像の 活用
- ○ツイッター、SNS、フェイスブック、ブログ、You Tube、ウェブサイトでの展示紹介
- ○ホームページのリニューアル
- ○館に来てもらうのではなく、出張・出前 講座を実施
- ○ウェブセミナーの開催
- ○巡回展示セットの作成
- ○収蔵品の写真などのデジタル・データ の提供
- ○ZOOM を利用したガイド・セミナーの実 施
- ○バーチャル化の検討
- ○学芸員による展示品の解説動画の配信
- ○ステイ・ホーム期間中に所蔵する映像 や写真からクイズを出題して配信
- ○紙芝居や読み聞かせ企画の動画化

将来の方向性として、バーチャル技術 の導入の検討、収蔵品情報の電子空間で の発信強化、オンライン発信の改善など、 ウィルス感染のリスクを減らす方向が模 索されている。

5.「財政困難に直面した」と回答したケース

「設問7:新型コロナ・ウィルスは貴博物館・資料館の今後の計画に影響を与えましたか?」について「財政上の困難に直面した」とする回答を選択した館が21館(37%)あった。

中には、「閉館も検討せざるを得ない状況に陥った」とする館も5館(9%)に及んだ。

財政上の困難の主原因は、「コロナ休館」による今年の来館者、寄付金およびミュージアム・グッズ販売収入の激減による収入減だが、あわせて、貸会議室業務も取り扱っていた館では、その面での利用がなくなったことに伴う収入減もあった。また、自治体などからの委託事業を受けていたところでは、それがなくなったことも痛手となった。戦争体験者の講話や朗読会などの事業の見直しを求められたケースもあった。

6. 国や自治体への要望

「設問®:今後、国や自治体との協力・連携・支援等の面で、どのような要望がありますか?」については、以下のような要望があった。

- ○感染対策情報の迅速な伝達や消毒液の 供給など、感染防止策の強化
- ○来館者・スタッフの衛生管理のための物資・用具・資材の確保に必要な財政支援 ○バーチャル・ミュージアム化を進める ための人的・財政的支援
- ○家賃保障や休業補償、決算時における 収入保障(過去3年ぐらいの実績に見合 う収入の補填)、持続科給付金支給、税金・ 社会保険料などの減免など、博物館・資料 館運営上の財政支援の強化
- ○施設運営経費と啓発事業実施経費の助 成
- ○展示目録作成やホームページ作成・リニューアルなどの財源支援
- ○学芸員の配置の支援

- ○今次のような困難な事態に対応するノ ウハウの提供・支援
- ○文化的・教育的活動の重要性の認識の 発信と、博物館・資料館の状況に応じた支 援の強化
- ○学校団体見学などへのサポート
- ○この間取りやめた委託事業の復活
- ○戦争が行われた事実が風化しつつあり、 戦争のあった「昭和」を記録して欲しい

7. 結語

戦後75年、被爆75年の2020年、日本の平和博物館・資料館の半数以上が何らかの特別企画を準備し、新型コロナ・ウィルス感染症蔓延の状況下で中止や延期を余儀なくされつつも、形を変えて実施するなどの工夫がなされた。その中で、電子空間を通じての情報発信や意思疎通の試みが少なからず見られ、将来の方向性としてもツイッター、SNS、フェイスブック、ブログ、YouTube、ウェブサイトを通じての発信、バーチャル・ミュージアム化の検討などに少なからぬ関心があることが判明した。

また、今次新型コロナ・ウィルス感染拡大に伴う休館措置などによって収入が減少し、閉館の危機を含めて財政的困難を感じている館が3分の1強に及んだ。こうした事態に対して平和博物館・資料館の運営に対する支援(感染症対策や財源保障)の強化を求める声が多く聞かれ、文化的・教育的事業の重要性に対する認識や戦争の時代の記憶の風化に対する危機感などを表明する声も聞かれた。

今後の問題としては、収蔵品に関する 情報や館としてのメッセージの発信は電 子空間を通じて行うとしても、収入をどう確保するかは引き続き重要な問題である。収蔵品解説や証言 DVD の販売、有料のズーム研修会やウェビナーの開催、クラウド・ファンディングの活用などが考えられるが、それらのノウハウを経験交流し、知識を共有するためにも、市民ネットワークとしての交流事業を工夫していくことが有意義だろう。

なお、このアンケート調査結果の一部 は第10回国際平和博物館会議において安 斎育郎が "COVID-19 and Human Rights" としてポスター発表を行なった。

「核兵器禁止条約」批准国の 発効条件達成を歓迎する

立命館大学国際平和ミュージアム 館長・吾郷眞一/名誉館長・安斎育郎 2020 年 11 月 6 日

核兵器禁止条約の発効は、核軍縮史の 画期をなすものである。

同条約は、核兵器の開発・保有・使用、 使用の威嚇に加えて、核兵器使用の「援助、 奨励、勧誘」をも禁止している。すなわち、 非核保有国が核保有国の核兵器に依存す る、いわゆる「核の傘」をも禁止している ものである。

「核兵器禁止条約は核保有国とその同盟 国が加盟していないから実効性がない」 という非難は、一面的である。確かに、こ の条約に参加していない国々が直接条約 に拘束されることはないが、核兵器実戦 使用の犠牲となった広島・長崎の被爆者 たちの悲痛な叫びに共感した世界の市民 の声を踏まえ、条約発効に必要な 50 か 国が核兵器の全面禁止を求める条約を批 准したという事実は、核兵器による威嚇 やその実戦使用への誘惑に対する大きな 抑止効果をもつものである。すでに国際 司法裁判所は、1996年7月8日、国家 の存亡の危機に際しての核兵器による威 嚇や使用については結論を留保したもの の、「核兵器の威嚇または使用は武力紛争 に適用される国際法の規則に一般的に違 反する」との勧告的意見をとりまとめた。 核兵器禁止条約は、核兵器による威嚇や 使用を違法化しようとする国連加盟諸国 の画期的な動きであり、われわれはこれ を歓迎し、この条約に背を向けている核 保有国とその同盟国が、「核兵器による安 全保障政策」を転換することを求める。と りわけ、唯一の被爆国である日本の憲法 は、紛争の解決、安全の維持、平和の構築 において、武力依存の極小化を要求する 「平和主義」に立脚しており、アメリカの 核兵器に依存して安全保障政策を構築す ることは日本国憲法の精神とは矛盾する ものであり、「核の傘」政策の転換を要請 する。日本国憲法の下にある日本の市民 は、核兵器禁止条約を準備し、成立させ、 発効させる上で発揮された被爆者を含む 市民社会のグローバルな努力と、それに 呼応して条約を批准したニュージーラン ド、南アフリカ、メキシコ、オーストリア 等の政府との連携・共闘が求められてい る。

立命館大学国際平和ミュージアムは、 展示やその関連企画を通じて核兵器使用 の非人道的な実相に関する情報をさらに 伝えるとともに、「平和のための博物館国際ネットワーク」や、広島平和記念資料館や長崎原爆資料館も加盟する「日本平和博物館会議」、さらには、「平和のための博物館市民ネットワーク」とも共同して、核兵器のない世界の実現のために一層努力することを声明する。



Mahatma Gandhi by Pegge Patten acrylic on cradled pane

投稿大歓迎

- ◆字数:500字を目安に
- ◆願わくは写真を1~2枚
- ◆期限:随時受け付けます

〈原稿送り先〉 編集委員へ

musejapankyoto@gmail.com

INMP 役員選挙結果

2020年11月、「平和のための博物館 国際ネットワーク」(INMP)の役員選挙 が行なわれ、執行理事10人、諮問委 員12人が選ばれました。日本の有権 者の投票率は84%、世界全体でも70% を超える高い投票率でした。

〈執行理事〉

ジョイス・アプセル (アメリカ)
モナ・バダムチザデ (イラン)
キンバリー・ベイカー (カナダ)
クライブ・バレット (イギリス)
君島東彦 (日本)
ジェスパー・マグヌッソン (ズウェーデン)
イラッチェ・モモイシオ (スペイン)
ムヌヴェ・ムティシャ (ケニア)
乗松聡子 (カナダ)
リン・トラン (ベトナム)

〈諮問委員〉

クリスチャン・バートルフ (ドイツ) キャスリン・コーガン (アメリカ) ルーシー・コルバック (ホンコン) ロニー・フランクス (アメリカ) フランシス・パトリック・ハッチンソン (オギリス) シャノン・ジョンソン (イギリス) シャノン・ジョンソン (イギリス) 特(関) ケヴィン・ケリー (アメリカ) マリ・チエミ・レイラニ・クムラ (日 マリ・チメリカ) ロムダック・リケス・リエストラ (オーストラリア) エリック・ソマーズ (オランダ)